第41期特別記念展

漢碑展

令和8年12月8日（火）～令和9年3月31日（火）
（年末年始休暇：12月15日～1月4日）

小原道城書道美術館

札幌市中央区北２条西２丁目　札幌２・２ビル２階

入館料：300円（大学生以下無料）　休館日：月曜日

ART GALLERY HOKKAIDO
アートギャラリー北海道

中国の文字は、殷代に創製された甲骨文字が、王朝の一部神官のみが操るものであったのに対し、漢代には隷書として、広く末端の役人にも普及し、文書行政が行われるほどに一般化しました。隷書は、前代の篆書が簡略化されてできた書体です。ただ、隷書にも初期の古隷から、次第に成長を遂げ、後には、公用的なものには波磔の強い八分、日用的なものには草隷など、書風にも変化が生まれてきました。そして、隷書は更に簡略化されて、西晋の頃には楷書が成立していきます。

この漢代の文字文化を今に伝えるのが、石刻や木簡（肉筆）、印章などです。その中で代表的な石刻は、今日約二百点が残存しています。前漢の石刻の遺例は少ないですが、後漢後期には八分が盛んに行われ、そのなかでも力強いものや艶麗なものなど様々な書風が行われました。特に「礼器碑」と「曹全碑」は、八分の代表的なものと言われており、今日も隷書を学ぶ人たちの規範となっています。

本展では、前漢の古隷の「魯孝王刻石」をはじめ、後漢の古隷の「開通褒斜道刻石」、八分の「石門頌」・「礼器碑」・「鄭固碑」・「西狭頌」・「曹全碑」など、漢碑の名品二十六種類、一部拓本については複数展示とし、三十六点の拓本を展覧します。

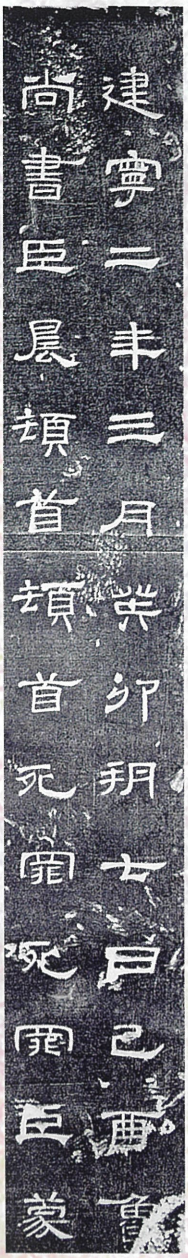
本道で、漢碑の規模の大きい展覧は稀です。書はもとより、広く中国古代の文字、歴史・文化に関心のある方々のご観覧をお待ちします。



石門頌



礼器碑



史晨碑

小原道城書道美術館（こはらどうじょう）

〒060-0002
札幌市中央区北２条西２丁目41
札幌２・２ビル２階
お問い合わせ先：011-552-2100

入館料：300円（大学生以下無料）
開　館：午前10時～午後５時
休　館：毎週月曜日
交　通：JR札幌駅より徒歩５分、
地下鉄さっぽろ駅・大通駅より各徒歩５分



小原道城書道美術館　第41期特別記念展

漢碑展

会期　令和8年12月8日(火)
～9年3月31日(火)

休館日：毎週月曜日、年末年始（12月15日～1月4日）

ART GALLERY HOKKAIDO
アートギャラリー北海道

中国の漢（前漢・新・後漢。前二〇二～後二二〇年）は、短命の統一王朝秦の後を継いだ、中央集権制による強固な統一王朝でした。前後四百年にわたる統治は、第七代武帝に至り、国土の拡大、文物制度の完備、儒教の全面受容により、最高潮に達しました。中国の歴史上最も長期の王朝であり、中国文化の基盤を形成した時代でした。

中国の文字は、殷代に創製された甲骨文字が、王朝の一部神官のみが操るものであったのに対し、漢代には隷書として、広く末端の役人にも普及し、文書行政が行われるほどに一般化しました。隷書は、前代の篆書が簡略化されてできた書体です。ただ、隷書にも初期の古隷から、次第に成長を遂げ、後には、公用的なものには波磔の強い八分、日用的なものには草隷など、書風にも変化が生まれてきました。特に、最高潮に達したのが、後漢の後半の桓帝・霊帝の時期でした。そして、隷書は更に簡略化されて、西晋の頃には楷書が成立していきます。

この漢代の文字文化を今に伝えるのが、石刻や木簡（肉筆）、印章などです。その中で代表的な石刻は、今日約二百点が残存しています。前漢の石刻の遺例は少ないですが、後漢後期には八分が盛んに行われ、そのなかでも力強いものや艶麗なものなど様々な書風が行われました。特に「礼器碑」と「曹全碑」は、八分の代表的なものと言われており、今日も隷書を学ぶ人たちの規範となっています。

本展では、前漢の古隷の「魯孝王刻石」をはじめ、後漢の古隷の「開通褒斜道刻石」、八分の「石門頌」・「礼器碑」・「鄭固碑」・「西狭頌」・「曹全碑」など、漢碑の名品二十六種類、一部拓本については複数展示とし、三十六点の拓本を展覧します。

本道で、漢碑の規模の大きい展覧は稀です。書はもとより、広く中国古代の文字、歴史・文化に関心のある方々のご観覧をお待ちします。

◆漢碑　展◆（第一・二・三・四室）

（作品寸法：縦×横、単位cm）

（第一室）

展示一　魯孝王刻石（五鳳二年刻石）（前五六年）　（拓本　89×33）

二　平陵何君碑（五七年）　（拓本・軸装　68×79）

三　大吉買山地記（昆弟六人買山地記磨崖）（七六年）　（拓本　131×128）

四　祀三公山碑（一一七年）　（拓本　135×62）

五　乙瑛碑（一五三年）　（拓本　200×96）

六・七　李君通閣道磨崖（漢永寿題名詩）（一五五年）　（拓本　66×52、66×57）

（第二室）

展示八・九　開通褒斜道刻石（六六年）　（拓本　123×249、127×256）

一〇　礼器碑（韓勅碑）（一五六年）　（拓本　168×200）

（第三室）

展示一一・一二　石門頌（一四八年）　（拓本　208×195、213×193）

一三　史晨碑（一六九年）　（拓本　170×175）

一四　西狭頌（一七一年）　（拓本　149×143）

一五・一六　孔宙碑（一六四年）　（拓本　170×103、173×96）

一七・一八　楊淮表記（一七三年）　（拓本　200×66、204×71）

一九　韓仁銘（一七五年）　（拓本　119×95）

（第四室）

展示二〇　鄭固碑（一五八年）　（拓本　129×72）

二一　婁寿碑（一七四年）　（拓本　167×90）

二二・二三　曹全碑（一八五年）　（拓本　180×80、175×87）

二四・二五　張遷碑（一八六年）　（拓本　221×80、227×91）
二六　司馬芳残碑（c二一九〜二二〇）　（拓本・軸装　102×95）
二七　簿書残碑（年代不明）　（拓本　137×68）
二八　石門（年代不明）　（拓本　93×55）
二九　玉盆（年代不明）　（拓本　116×67）
三〇　石虎（年代不明）　（拓本・軸装　85×52）
三一　漢塼（年代不明）　（拓本　35×52）
三二　漢塼（年代不明）　（拓本　35×34）

（ショーケース内）

展示三三　乙瑛碑（一五三年）（法帖）　（拓本・法帖　34×22）
三四　西狭頌（一七一年）（法帖）　（拓本・法帖　28×18）
三五　郙閣頌（一七二年）（法帖）　（拓本・法帖　30×16）
三六　曹全碑（一八五年）（法帖）　（拓本・法帖　33×17）

◎拓本の新旧について

1　古い拓本の価値

・碑石は、年月の経過とともに、自然の風化・浸食を受けたり、戦乱などの人為的な被害に遭うこともある。このため、古い拓本ほど原形を留めているものであり、重要視される。

・唐の欧陽詢の『九成宮醴泉銘』は、数百年にわたり拓本が採られ続けたために、現在では筆画は痩せ衰えていると言う。また、前四世紀頃の『石鼓文』は、宋代には四百五十余字が見えていたが、その後の欠損の結果、今では二百七十字ほどしか見ることができない。

2　拓本の新旧の見分け方

①文字の欠損状態からの判断

ある拓本で見えている文字が、他の拓本では見えない場合、その間に欠損が生じたものであり、見える拓本が古い。

②補刻からの判断

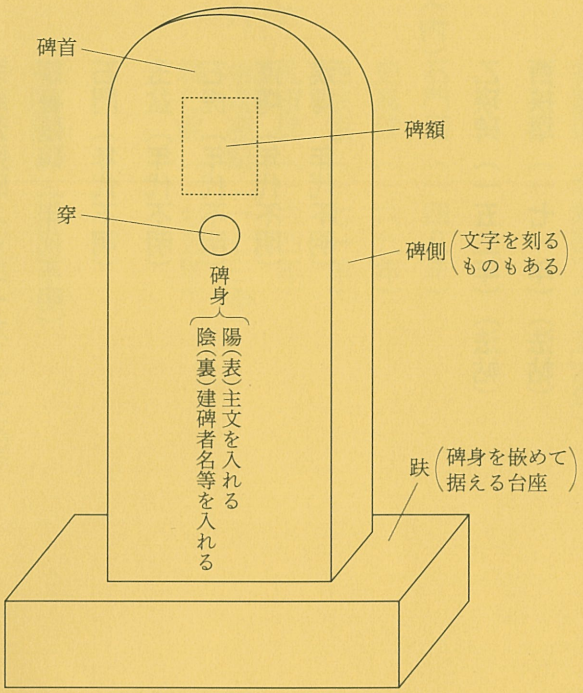
逆にある拓本で見えていない文字が、他の拓本では見える場合がある。これは補刻がなされたためである。

補刻部分は、線質が弱々しい事が多いが、一見して分からないことも多い。

③跋文からの判断

碑刻の本文の後に、後代の跋文・題記などが附刻されていることがある。これらの有無などで、採拓の前後関係が分かる場合がある。

碑の各部名称



（西林昭一『書の文化史　上』より）

小原道城書道美術館

〒060-0002　北海道札幌市中央区北2条西2丁目41番地　札幌2・2ビル2階
お問い合わせ先＝日本書道評論社（TEL 011-552-2100）
[入 館 料]　300円（大学生以下無料）
[開館時間]　午前10時～午後5時
[休 館 日]　毎週月曜日・年末年始・お盆休み・作品の展示替えの期間
[交　　通]　JR札幌駅より徒歩5分、地下鉄さっぽろ駅・地下鉄大通駅より徒歩5分

協　賛／日本書道評論社